

最近のIAPHの活動状況について



2024年1月26日

国際港湾協会 事務総長

古市正彦

IAPH World Ports Conference 2023

- 2023年のアブダビ総会（2023年10月31日（火）～11月2日（木））は、バンクーバー会議より多い約700名（地元参加者が約200名）の参加を得て成功裏に開催された。
- 中東アブダビでの開催であったことからアフリカからの参加者が多かったが、日本の以下の会員組織等から18名の方々にご参加いただいた。
- 国土交通省、東京港埠頭（株）、横浜港埠頭（株）、横浜川崎国際港湾（株）、名古屋港管理組合、大阪港湾局、神戸市港湾局、阪神国際港湾（株）、（一社）寒地港湾空港技術研究センター、五洋建設株式会社、東亜建設工業株式会社、APMターミナルズジャパン株式会社、IAPH日本会議

総会の会場となったAbu Dhabi National Exhibition Centre (ADNEC)



FUJITSU Fujitsuがスポンサーとしてブース出展

議論された主要なテーマ

(1) 2023年7月に国際海事機関 (IMO) のGHG戦略が改訂され、2050年までに国際海運からのGHG排出ネットゼロを目指すことが大枠で合意されたことから、海運、港湾、荷主がそれぞれの立場でどのようにそれを実現していくかについて多面的な議論がなされた。

(2) 2024年1月より船舶の入出港手続きに関するMaritime Single Window【日本では「港湾EDI」と呼ばれている】の導入が義務化される (FAL条約批准国) ことに伴い、まだ間に合っていない港湾への取り組み強化を促すとともに、入出港手続きに留まらず港湾やターミナル・オペレーションさらにはサプライ・チェーンに関わるあらゆる分野のデジタル化の促進について議論された。また、サイバー・セキュリティに関して多くの参加者の興味を集め、日本からの参加者も大いに情報収集を行っていた。

(3) さらに今年の会議の特徴としては、実質荷主 (Beneficial Cargo Owner) がカーボン・ニュートラルを志向し、カーボン・ニュートラルな船社、航路、港湾を選択する傾向がより強くなっているようである (イケアやカーギルが登壇した)。

IAPH Board Members (2023-2025)

President					
Jens Meier Chief Executive Officer Hamburg Port Authority, Germany 					
Vice President Africa	Vice President America, Central and South	Vice President America, North	Vice President Asia, South/West, East and Middle East	Vice President Asia, South East and Oceania	Vice President Europe
Michael Achagwe Luguje Director General, Ghana Ports and Harbours Authority, Ghana 	José Firmo Chief Executive Officer Port of Açu Brazil 	Eugene Seroka Executive Director Port of Los Angeles U.S.A 	Masaharu Shinohara Executive Officer Kobe-Osaka International Port Corporation, Japan 	Eranda Kotelawala Chief Executive Officer Solomon Islands Ports Authority Solomon Islands 	Stéphane Raison Chief Executive Officer HAROPA PORT France 

President of IAPH (第33代会長)

【略歴】

ハンブルク大学でコンピューターサイエンスと経済学を学んだ後、ソフトウェア・デザイン&マネジメントAG（アーンスト&ヤング・グループ）の取締役としてキャリアをスタート。

2000年にSystematics AG（後のEDS）の部門マネージャーに任命され、コンサルティングとソフトウェア開発を担当。2002年からはtts Holding GmbH & Co. KGのCEOを務め、IT、財務、国際物流を担当した。

2006年、ttsグループのFiegeへの売却に伴い、Fiege Holding Stiftung & Co. KGの取締役に就任した。

2008年からはハンブルク港湾局（HPA）のCEOを務めている。

マイヤー氏は、港湾のデジタル化に焦点を当てた国際ネットワークであるchainPORTイニシアチブの共同創設者である。

Jens Meier
CEO

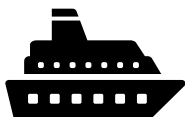
Hamburg Port Authority, Germany



ESIプログラムのインセンティブスキームの概念

Incentive Receivers (IRs)

インセンティブ・レシーバー（船舶）



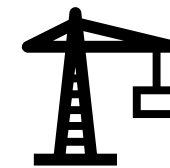
船舶の環境性能がIMOの規制基準より優れている場合、インセンティブ・プロバイダー（港湾）はインセンティブ・レシーバー（船舶）に対し、ESIスコアに応じた港湾使用料の割引を提供します。

港湾使用料の割引

船舶の環境性能
改善に資する投資促進

Incentive Providers (IPs)

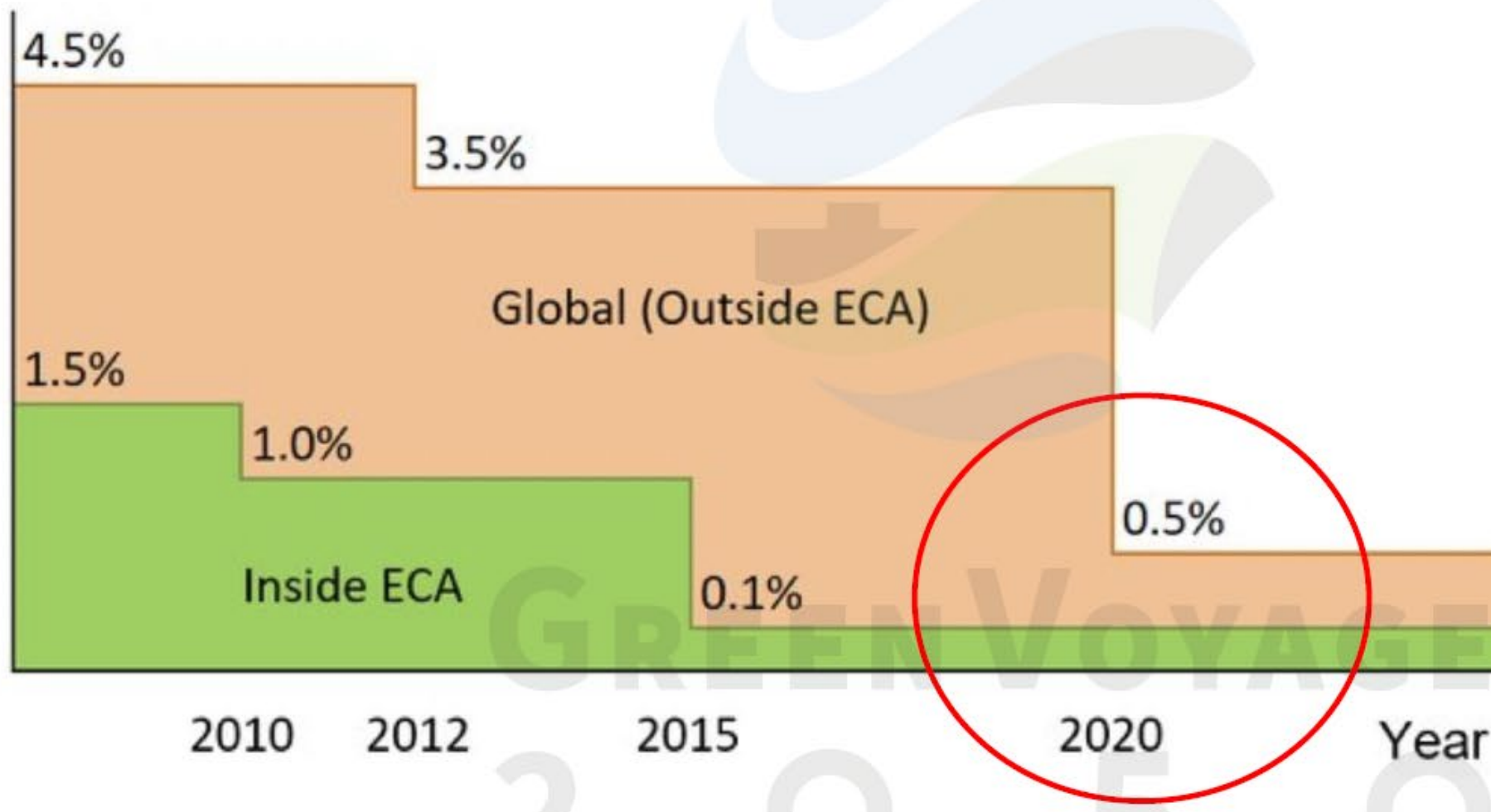
インセンティブ・プロバイダー（港湾）



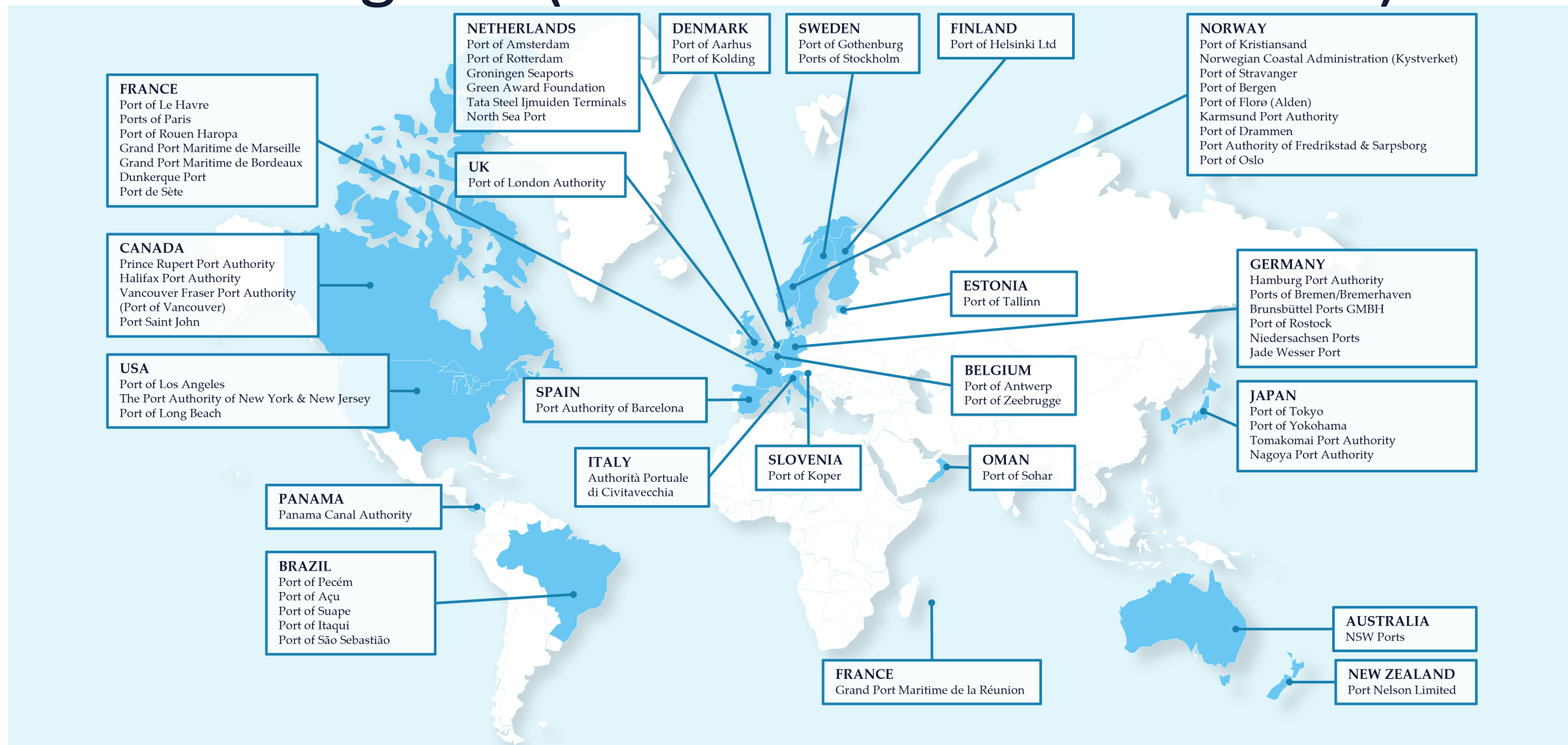
IMOの規制と連動したESIプログラムによって港湾とその周辺の大気環境の改善が期待されます。

SOxに関するIMO規制の経緯

バンカー油に含まれる硫黄濃度 (%)



ESI Program (Incentive Providers: Ports)



ESI Program (Incentive Receivers: Ships)



ESI Program (Incentive Providers:日本からの参加港)

港湾名	港湾管理者	参加時期
東京港	東京都港湾局	2015年4月1日
横浜港	横浜市港湾局	2017年4月1日
苫小牧港	苫小牧港管理組合	2021年4月1日
名古屋港	名古屋港管理組合	2023年4月1日
大阪港	大阪港湾局	2024年1月1日
堺泉北港		
阪南港		
その他府営港湾		
神戸港	神戸市港湾局	検討中
四日市港	四日市港管理組合	検討中

IAPH World Ports Conference 2024 (Hamburg)



【独：ハンブルグ】

場所：Congress Center Hamburg（予定）

日程：2024年10月8日（火）～10日（木）

IAPH World Ports Conference 2025 (Kobe)

1955年に設立された国際港湾協会（IAPH）の70周年にあたる2025年のIAPH World Ports Conferenceは、その設立由来の地である神戸で2025年秋頃（10～11月）に開催することが決定。

【国際港湾協会設立の経緯】

第二次大戦後の復興の中、日本港湾協会会長松本学氏を中心に、神戸市長原口忠次郎氏、運輸事務次官秋山龍氏は、1952年神戸に世界の主要港を招き、国際港湾協会設立の準備会議を開催し、恒久的な国際的組織の設立について決議した。3年後の1955年、国内外の関係者から賛同を得て、ロスアンゼルスで第1回世界港湾会議（IAPH World Ports Conference）が開催され、国際港湾協会が正式に創立された。



IAPH日本セミナー（2024年7月9日（火） 1500～1730）

場所：アジュール竹芝

1730～1900：意見交換会【カクテル・パーティ】

講演者		講演題目（仮）
イエンス・マイヤー	ハンブルグ港CEO (IAPH会長)	ハンブルグ港における最新の取り組み
神戸市港湾局		神戸港における水素エネルギーハブ構想
HySTRA（技術研究組合CO ₂ フリー水素サプライチェーン推進機構）		HySTRAのCO ₂ フリー水素サプライチェーン実証事業
パワーエックス		パワーエックスのビジネスモデルと港湾のカーボンニュートラル